「つながる」から「つなぐ」支援へ

柏原市立国分中学校　森田　由梨

個別の教育支援計画

子どもの特性　興味のあること　得意なこと

将来に向けての目標や願い　必要な合理的配慮

支援内容　支援目標

利用している医療機関・福祉等関係機関

↓

多面的な情報を共有

↓

長期的な支援を行うために効果的

作成について❶

通常の学級に在籍している生徒への作成

↓

学校側からのアプローチが多い

支援を必要としている生徒に**「気づくこと」**
生徒のSOSを**「見逃さないこと」**

作成について❷

校内で複数対応が必要な「支援レベル」

不登校　自傷行為
生徒指導事象　等…

障がいや特性が背景にある可能性もある

作成について❸

保護者の同意が必要

→ **「つながること」**が重要

カウンセリングマインドで

閉ざされた心へのアプローチ

本人・保護者のペースに
あわせて

作成について❹

〖本校の人権目標〗

自己理解　他者理解　社会理解

自覚 ⇒ 自覚＋工夫

活用について❶
環境整備から本人の安定

【生徒A　衝動タイプのADHD　医療機関受診・服薬あり】

作成活用前	**騒がしい環境では落ち着かない 大人に対する不信感 教員に対して暴言あり**
作成活用後	教員による環境整備 （指示の明確化・視覚化・簡素化） ⇨落ち着いた学校生活を送れるように **すべての生徒に必要な 基礎的環境整備**

進学先へ

活用について❷
自己理解から本人の安定

【生徒B　衝動タイプのADHD　医療機関受診・服薬あり】

作成活用前	**怒りの感情をコントロールできない 集団でも暴言を発する 人間関係のトラブル**
作成活用後	個別対応の場の設定 指導が必要な場面で、目標の確認 **自己の特性の理解** （本人の自覚・対処スキルの習得・心身の安定） **進学先へ**

活用について❸ ～近年の校内・校外の活用～

連携

協働

- 校内ケース会議
- 医療機関（病院）
- 福祉（放課後デイ等）

校内での作成・活用の流れ

保護者（本人）同意のもと作成

▼

校内委員会で共有

▼

本人の状況確認

▼

目標や支援内容の再検討（校内委員会）

▼

全教員で共有　**※校内の支援回覧**ファイル

生徒の状況　一覧

通常の学級に在籍している生徒の状況　2020年7月末までの状況　◎印の生徒→今年度教育支援計画作成

クラス 名前	長期目標（年間目標）	登校状況	保護者の願い	学校での様子・支援内容	配慮事項・要求事項
◎生徒A	進路決定に向けて安定した心で、目標をもって学習に取り組むことができる。	遅刻 早退 欠席なし	落ち着いた学習環境で学んでほしい	真面目に学習にも取り組めている。わからないことは安心して先生に質問できるようになっている。	体に触れられることを嫌がる。納得いかないことに対し衝動的になる。指示の明確化・簡素化を。ADHD服薬あり。
◎生徒B	・集団の中でマイナス発言せず、自身の心で整理する力をつける。 ・怒りの感情を振り返ることができる。	遅刻 早退 欠席なし	集団の中での様子や対人トラブルが心配。薬の服用もしながら落ち着いて過ごしてほしい。	教員の指導に素直に従えないことがある。教育支援計画をもとに、自己の目標を認識させ、指導できた。授業も頑張っている。	感情が高ぶるので指導の際は配慮が要る。クールダウンとして別室対応も必要。ADHD服薬あり。

切れめのない支援をめざして

生徒・保護者と**「つながること」**

校内の支援体制を**「つなげること」**

外部関係機関と**「つながること」**

進路先へ**「つなぐこと」**